

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	18102004	研究期間	平成18年度～平成22年度
研究課題名	長崎県北松浦郡鷹島周辺海底に眠る元寇関連遺跡・遺物の把握と解明	研究代表者 (所属・職)	池田 栄史（琉球大学・法文学部・教授）

【平成21年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

当初の計画通り、順調に調査・研究が進んでおり、所期の研究目的を達成する可能性は高い。物理学的手法による海底探査と、水中考古学的手法による海底遺跡調査という斬新な共同学際研究は、十分な実績を上げつつあると評価される。

調査に基づく個別論文等は相当数が発表されているが、今後は調査結果全体を総合化した成果の発表が必要である。また、本研究の波及効果は大きいので、すでに発信を行っている日本・韓国以外にも、中国・東南アジアや欧米に向けて国際的な発信を行うよう努力を期待する。

研究分担者の1人が死亡したことによって生じた韓国関係資料調査に関する障害は、現在では研究代表者および他の研究分担者の努力によって克服されているかに見えるが、円滑な研究推進のためには専門的な研究分担者を補充することを考えるべきである。

【平成23年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	<p>当初の研究目的である、物理学的手法により伊万里湾全域にわたる海底地形図及び地質図を作成し、音波探査によって異常反応を示した堆積物61カ所を反応の違いにより9つに類型化し、試掘調査を行い、連結した状態で並んでいる板材を検出し、元寇船の一部と考えられる発見をした。元寇船の発見に期待値を高めたといえる。</p> <p>元寇関連遺物の実測図の作成や写真撮影など考古学的資料化を行い、日本・中国・韓国に残る元寇関連史料の史料集を刊行するなど、元寇研究の資料的基礎を確立した。</p> <p>物理学的手法と水中考古学的手法の融合は、海底遺跡の調査方法として有効であるので、成果のより社会的な周知を期待する。</p>